

「電気自動車初体験 (3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所 研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

日産の「サクラ」は電気自動車なので、当然内燃機関 (エンジン) はない。つまりキーでエンジン・スタートをするという手順がなく、ただ「スイッチ ON」にするだけで、そのまま走行できる。ハンドルにはさまざまなスイッチがついているが、一番驚いたのは、「プロ・パイロット機能」である。



高速走行時などに、前の自動車との距離や、センターライン等を感知、基本的にハンドル操作をしなくても自動的に運転してくれるらしい。軽自動車にこんな先進的な機能がつくとは、驚きである。ほかにも「止まれ」の標識を自動的に認識したり、「ふらつき運転時」に眠気を警告する機能もあるという。



ハンドル奥のパネルも、完全にデジタル表示だ。まるでグラス・コックピット (デジタル表示の計器盤)

装備の軽飛行機の操縦席のようである。現在速度はもちろん、外気温、残充電量、走行可能距離なども表示される。エンジンがないので、燃料残量や液温などの表示はない。



運転席左側のパネルには、シフトノブがある。見たことのないタイプだ。パーキングに入れる時は、「P」ボタンを一回押すだけでよい。「N (ニュートラル)」と「D (ドライブ)」は軽く上下するだけだが、「R (リバース)」だけは、シフトノブ右側のボタンを押さないと入らないようになっている。シフトチェンジというよりも、「走行用スイッチ」に近い。

電気自動車なので、エアコンもすべて蓄電池で稼働する。夏は当然航続距離にも影響するだろう。



ナビゲーション画面も充実している。通常のナビだけでなく、車の現在の状況を刻々と教えてくれる。一番感動したのは、試しに自分の車庫に入れた時、まるで車を真上から見たように、しかも実景で映し出してくれることだ。車体の周囲に装備されたカメラの画像を合成し、まるで真上から撮っているように見せているのだという。まるで未来の車を運転した気分だった。